

# ◎本会の動き◎

## 2020年度部会活動貢献賞 (部会CT賞)

### The Award for Distinguished Service to SCEJ Divisional Activity

**[部会CT賞表彰にあたって] (上宮成之 部会CT長)**

化学工学会では、基盤技術分野として6部会および展開技術部会として8部会がそれぞれ横系および縦系として各学問分野での専門家集団を形成し、その分野の学会代表として積極的な活動を行っております。また、国際的にも我が国の研究者集団の代表として国際シンポジウムの開催を行う等、積極的に寄与致しております。このような部会活動は部会員の皆様の御努力によって支えられておりますが、特に若手会員の不断の貢献に因るものが大であります。この貢献に少しでも報いるべく2010年度より部会活動貢献賞として部会CT賞が設けられました。貢献された個人のみならずグループも表彰の対象となります。本年度は11回目の表彰となり、企画、運営等の部会活動の活性化に大きく貢献された以下の方を受賞者として選定しました。

受賞者への表彰は、2021年3月にオンライン開催されました第86年会初日の開会式にて行われました。受賞者のこれまでの献身的な貢献に感謝するとともに、今後も部会を始め化学工学会の諸活動に御支援賜りたく、ここにお願ひ申し上げる次第でございます。

最後に、この度受賞されました方に、心よりお祝いを申し上げます。

---

#### 基礎物性部会における 部会活動の活性化への顕著な貢献

---

町田 洋 氏(名古屋大学)

---

#### **[基礎物性部会]**

町田洋氏は基礎物性部会において、[1]物性測定情報データベースの構築ならびに部会Webサイトでの公開、[2]部会横断型学会活動、[3]APCChE2019特別セッションの運営を通して、部会活動の活性化に顕著に貢献しました。

[1]物性測定情報データベースの構築ならびに部会Webサイトでの公開

基礎物性部会は化学工学で必要となる化工物性の測定や推算法の開発などに精通した研究者、あるいはそれらに関心のある技術

者から構成されていますが、部会の外からはどの研究者がどの物性を測定可能であるかが明確ではありませんでした。これを解消するため、町田氏を中心となって基礎物性部会員に調査を行い、測定可能な物性値と温度範囲などの測定条件や掲載論文情報などを取りまとめました。気液平衡、液液平衡、密度、粘度、拡散係数など、化学プロセスで必要とされる多くの平衡物性・輸送物性に対して、測定可能な研究者、測定可能な温度・圧力範囲、測定手法、掲載論文、装置概略図などが一覧できるよう工夫されています。この物性測定情報データベースは部会Webサイト上に公開されており (<http://www2.scej.org/pp/bussei1910a.html>)、化工物性のユーザーと研究者の橋渡しのための重要な情報となっています。

#### [2]部会横断型学会活動

町田氏は第49回秋季大会(2017年)において基礎物性部会セッションのオーガナイザーを務め、プログラム編成や学生賞の準備などを担当されました。第50回秋季大会(2018年)においては、基礎物性部会、分離プロセス部会、環境部会の部会横断シンポジウム「二酸化炭素資源化(CCU):CO<sub>2</sub>再利用の為のプロセス開発と基礎物性」のオーガナイザーを務め、プログラム編成、招待講演者の選定などに多大な貢献をされました。CCUはCO<sub>2</sub>の分離、輸送、利用など様々なプロセスで構成され、基盤となる技術は基礎物性、分離プロセス、環境・経済性評価など多岐にわたります。そのためこれまで、様々な異なる部会のセッションで研究発表がされてきました。町田氏は自身が所属する基礎物性部会と分離プロセス部会、環境部会の担当者と連携し、CCUに関する包括的な意見交換ができる場として、部会横断シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは学会参加者の関心が非常に高く、100名を超える参加者(会場人数調査より)を得たシンポジウムとなりました。シンポジウムの最後に総合討論を行い、展望・招待講演者にも御登壇いただき、CCUSの今後の展開について議論しました。さらに、シンポジウム参加者へのアンケート調査も実施しました。企業の方からは、今後もCCUSに関するセッションや研究会の機会があったら是非参加したいとの回答が多数あり、これが戦略推進センターの下での部会横断型研究会であるCCUS研究会の立ち上げにつながっています。CCUS研究会には基礎物性部会からも多くの部会員が参加しており、他部会の部会員と情報交換を行っています。

さらに町田氏は、2020年9月に開催された第51回秋季大会においてもCCUS研究会シンポジウムのオーガナイザーとして、CCUS研究会、基礎物性部会、環境部会が共催したシンポジウムを開催し、部会交流、基礎物性部会活動の活性化に大きく貢献しています。

#### [3]APCChE2019特別セッションの運営

APCChE2019において町田氏は、Special Session S7. Carbon capture, utilization, and storage (CCUS)の企画と運営の中心的役割を果たしました。中でも、JST「国際活動加速基金」を申請・獲得できたことから、海外からのキーノート講演者の招聘や見学会の費用面での貢献が非常に大きなものとなりました。このセッションでは、ア

アメリカ(ジョージア工科大学), 中国(浙江大学), マレーシア(ペトロナス工科大学) から, CCUSの著名なキーノート講演者を招きました。日本からは, (株) IHIのオーストラリアでのCCS実証と, 日本CCS調査(株)の苫小牧CCS実証サイトに関してキーノート講演者を選定しました。口頭発表・ポスター発表も, CO<sub>2</sub>回収からCO<sub>2</sub>変換技術, EOR技術などCO<sub>2</sub>に関わる多面的な課題に対する研究発表がありました。特別セッション会場は50名の定員でしたが常に立ち見が出る盛況ぶりです。この分野への関心の高さが改めて明らかになりました。また, APCChE2019最終日に苫小牧CCS実証サイト見学会を実施し, 多数の参加者を得てCCSに関する国際的な連携につながる試みとなりました。その他にも, 特別セッションのプログラム編成, Proceedings編成, ポスターセッションの運営, Excellent Poster Awardの審査などを担当され, 特別セッションの企画と実施に多大な貢献をされました。

以上のように, 町田洋氏は[1]物性測定情報データベースの構築ならびに部会Webサイトでの公開による貢献, [2]部会横断型学会活動による他部会との交流と連携の推進, さらに[3]APCChE2019特別セッションの運営を通して, 部会活動の活性化に顕著に貢献



右：町田 洋氏  
左：上宮 成之 部会CT長

されています。

以上の理由により, 部会CT賞の受賞に相応しいと認められました。

(産業技術総合研究所 古屋 武)

## 化学工学会では, 化学工学誌電子版への移行を推奨しています。

(対象：正会員)

学会誌送付が不要な方は, マイページ内の「会誌郵送有無」から変更できます。  
変更処理のタイミングで翌月からとなる場合がございます。

((公社)化学工学会)